

「くうき読むの、やめちゃえば!？」 児童書で伝える民主主義

社会 | 速報

毎日新聞 | 2023/2/11 13:00 (最終更新 2/11 17:52)

有料記事 1795文字



共著した本を手にする専修大の山田健太教授（右）と、絵本作家のたまむらさち子さん＝東京都千代田区で2023年1月31日、手塚耕一郎撮影

言論の自由や民主主義の役割について分かりやすく解説した児童書『くうき』が僕らを呑みこむ前に脱サイレント・マジョリティー」（理論社）が出版された。専修大教授（言論法）の山田健太さん（63）と絵本作家のたまむらさち子さん（52）が作り上げた。謎のイキモノ「くうき」が登場し、空気を読んで自由な発言を控えがちな現代の風潮に警鐘を鳴らす。

理論社は児童書出版の老舗。同社編集者の岸井美恵子さん（63）が、国民の知る権利や言論の自由が制限

されつつあると説く山田さんの話に共感し、児童書の執筆を持ちかけた。



『くうき』が僕らを呑みこむ前に」に登場する謎のイキモノ「くうき」の4コマ漫画©Sachiko Tamamura

山田さんは20年来の知人であるたまむらさんに挿絵を依頼した。「メッセージ性の強い内容なので、自分の言いたいことを理解してもらえる人をお願いしたい」と考えたからだ。たまむらさんは原稿を読み、「子どもが読むには少し難しい」と感じた。絵本作家として「引きつけるための仕掛けをしたい」と考えた。「絵本に『翻訳』したい」と提案。挿絵だけでなく、原稿の内容は変えずに、たとえ話を加えたり4コマ漫画を付けたりして、肉付けをした。

たまむらさんは、頭で考えて学ぶのではなく、子どもたちの心に訴えて、日々の行動の変化につなげてもらいたいと思った。「今、実際に困っていることに結びつけないと伝わらない」と思案して生み出したのが、雲のような形をした謎のイキモノ「くうき」。空気を読みすぎて疲れている子どもたちに向けて「ねえ! やめちゃえば!？」（あたしのこと）読むの」と言わせた。

山田さんは「民主主義や自由の大切さ、と言っても言葉が上滑りしてしまう。『くうき』が生まれたことで、自分のこととして捉えてもらいやすくなった」と話す。

「くうき」はさらに言う。「みんなもタイヘンだと思うわけ いつもあたしのこと読んでさ〜」「でもあたしだって怖いよ いつもハラハラしてさ」「だってねえ」「あたしがどんな空気になるか決めるの あたしじゃないから」



山田健太専修大教授との共著について、インタビューに答えるたまむらさちこさん＝東京都千代田区で2023年1月31日、手塚耕一郎撮影

7章までの構成で、山田さんの原稿にはなかった「0章」は、たまむらさんが付け加えた。戦場で倒れた兵士が「まさかこんなふうに死ぬなんて」とつぶやき、空を見上げる。それが「きみの未来だとしたら？」と問いかける。そして、この「まさか」の未来にたどりつかないためにどうしたらいいかを考えようと呼びかける。

山田さんは最初は「少しとっぴな始まりかな」と感じた。だがその後、2022年2月にロシアがウクライナへの侵攻を開始し、戦争が現実のものとなった。たまむらさんは「警鐘を鳴らそうとこの絵を描いたが、その時はまだ遠い未来のことだと思っていた。急激に現実との距離が縮まりショックを受けた。現実が重すぎて、今だったらこの絵は描けない」と振り返る。

各章はそれぞれ「『たまたま一緒にいる人たち』とうまくやらなくてはならない」「ヘンな決まりができないように めんどくでも話し合う」などのタイトルで、話し合いや少数派を尊重することの重要性、皆が黙っていることで望んでいなかったはずの空気が醸成されてしまうことなど、民主主義や言論を巡る課題を解きほぐす。



たまむらさちこさんとの共著について、インタビューに答える山田健太専修大教授＝東京都千代田区で2023年1月31日、手塚耕一郎撮影

山田さんは「プロフェッサー・ケンタ」として登場。各章のコラムと、「ネットとフェイク」「情報公開制度」「国の守り方」などの“用語解説”で、人権や民主主義を巡る歴史や現在の動きを説明している。

第6章では「これまでの失敗」として、戦前の日本が言論統制下で作られた「空気」の中で戦争を拡大させていった歴史を紹介。最終章では、言論の自由を守るためには日常から「自分の考えを言う」よう呼びかける。山田さんは「社会全体で分断が進んでいる。対話をし、想像力を持って相手を理解しなくてはいけない」と話す。

山田さんは普段は大学生に講義をしているが、学級単位で活動をする小中高校で、同調圧力がより強まっているのではないかと考えている。「この本を持って小中学校で出張授業をした」と、子どもたちに直接会い、話をしたいと望んでいる。

1月に出版され、1430円。出版に合わせ、理論社のホームページ内に特設サイト「くうき研究室 (<https://www.rironsha.com/kukilabo>)」が開設された。日常生活で「なんだか変だな」と感じた疑問やひっかかったことを寄せてもらい、山田さんとたまむらさんとともに考える。現在、投稿を募集中だ。【小林多美子】